

MACF 礼拝説教要旨

2021.03.07

ローマの信徒への手紙 11 章

11:11 では、尋ねよう。ユダヤ人がつまずいたとは、倒れてしまったということなのか。決してそうではない。かえって、彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりましたが、それは、彼らにねたみを起こさせるためだったのです。

11:12 彼らの罪が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのであれば、まして彼らが皆救いにあずかるとすれば、どんなにかすばらしいことでしょう。

11:13 では、あなたがた異邦人に言います。わたしは異邦人のための使徒であるので、自分の務めを光栄に思います。

11:14 何とかして自分の同胞にねたみを起こさせ、その幾人かでも救いたいのです。

11:15 もし彼らの捨てられることが、世界の和解となるならば、彼らが受け入れられることは、死者の中からの命でなくて何でしょう。

11:16 麦の初穂が聖なるものであれば、練り粉全体もそうであり、根が聖なるものであれば、枝もそうです。

11:17 しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、

1:181 折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

11:19 すると、あなたは、「枝が折り取られたのは、わたしが接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。

11:20 そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。

11:21 神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。

11:22 だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがああり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。

11:23 彼らも、不信仰にとどまらないならば、接ぎ木されるでしょう。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。

11:24 もしあなたが、もともと野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの木に接ぎ木されたとすれば、まして、元からこのオリーブの木に付いていた枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょう。

11:25 兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、

11:26 こうして全イスラエルが救われるということです。次のように書いてあるとおりです。「救う方がシオンから来て、ヤコブから不信心を遠ざける。

11:27 これこそ、わたしが、彼らの罪を取り除くときに、彼らと結ぶわたしの契約である。」

11:28 福音について言えば、イスラエル人は、あなたがたのために神に敵対していますが、神の選びについて言えば、先祖たちのお陰で神に愛されています。

11:29 神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。

イスラエルの歴史についての詳細は旧約聖書を読み直し、いくつかの参考資料を読み返す必要があります。

しかし、今日の礼拝の中ではこの箇所でのパウロの中心的な主張を取り上げてみたいと思っています。

1) イスラエルにとっての「つまづき」が異邦人のための益となった

パウロは言います。そしてそれはまた彼らが福音を知るためでもあった。

11:11 彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりましたが、それは、彼らにねたみを起こさせるためだったのです。

11:12 彼らの罪が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのであれば、まして彼らが皆救いにあずかるとすれば、どんなにかすばらしいことでしょう。

私たちは因果応報という発想を持っており、問題の結果には原因があり、その原因は「良い結果」をもたらすためには「良い原因」、悪い結果をもたらすのは「悪い原因」と考えがちですが、パウロは「ユダヤ人のつまづき（悪）が異邦人への福音伝播のきっかけとなり、それがまたユダヤ人の嫉みを引き起こし、やがてユダヤ人たちが福音を再認識するに至る」というのです。つまり、ある出来事が回り回って良いこととなって戻ってくるというような発想がここにあります。不思議なブーメラン効果とでも言ったらよいのでしょうか。

良いことから始まったことが悪いことで終わることはよくあります。人間が作った組織などはそういうことが本当によくあります。

しかし、神様が働かれている事柄に関して言えば、「良いことが誤解され、誤用されることがあるとしてもどこかで良いことのために活用され、また、誤用した人たちに対してもどこかで神様のみわざが良いこととして伝わってくる、戻ってくることもある」というのです。

2) 高慢への警告

パウロはここで、異邦人と呼ばれていたクリスチャンたちに警告を発しています。

1:181 折り取られた枝に対して誇ってはなりません。

誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

いわゆるユダヤ人ではなく、イエス様を信じた人たちの中に、ユダヤ人たちを神に見捨てられた人たち、失敗者として軽蔑する人たちがいたのでしょう。

あるいは、イエス・キリストを十字架につけた人たちということで軽蔑した人もあると思います。しかし、パウロはそれを断じて許していません。

あなた方の信仰の根はユダヤ人の歴史を通して示されたものであり、その影響を排除することはできないし、それを無視しているからといってユダヤ人たちを排斥、排除することは神の喜ぶことではないとパウロは教えているのです。

要するに、「私たちは失敗したらもう起き上がれないし、自分の信仰は自分でここまで成し遂げた成果と努力の結果なのだ」という発想をパウロは否定しているのです。

神の不思議な計画は「人の思いを超えており、実に手の込んだ方法で神は福音を全ての人の心に届けようとしているのだとパウロはいうのです。

そこで思い出すのはイエス様の「7を70倍するまで赦しなさい」という言葉です。

神は神に選ばれていながら、神を冒瀆し、恵みを拒否しているユダヤ人を最終的には赦し癒そうとしておられます。

その愛の深さはエンドレスです。そして、その愛の中に私たちも置かれているのです。

さらに自分の信仰や信仰についての知識は自分たちが発見し、気づいたもので、他の人たちの考えは全部間違っているなどと考えることは非常に危険なことだということです。

多くの人たちの助けを借り、神様の不思議な歴史の介入があって、福音が私たちに届いたのです。私たちの頑張りとか、牧師の力量とか、そういうものとは関係なく、神の福音はあなたの心に届いています。謙遜に受け取り、謙遜にそれを育て、自分の生き方と自分の頭で考えながら、シンプルに生きることを継続したいものです。

そして、神は私たちに福音を信頼し、福音に即して生きようとしているなら生きていてだけで十分なのだと言っておられるような気がしてなりません。

「11:29 神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。」とあるからです。

「神様はあなたに対して、お前はもういらぬから、消えてしまいなさい」とは決して言わないのです。私たちは「生きるよう」にと、この世に置かれています。

生きるを選ぶこと、謙遜に生きること、それがとても大切な姿勢です。

祝福がありますように。